

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500139		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家室蘭 1F		
所在地	室蘭市緑町3-6		
自己評価作成日	令和2年2月14日	評価結果市町村受理日	令和2年12月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193500139-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193500139-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は介護に従事する者として、人権尊重、人格尊重、人権擁護の基本理念を理解して、職員自身も自分の個性や性格、らしさを支援できるように、努めています。また、日頃から、外出レクやテラスでのお茶会を提供して、毎日の生活の中で、喜びや気分転換を図って頂くよう、支援を実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

室蘭駅から車で5分程の幹線道路に面した住宅地にある2階建2ユニットのグループホームである。開設後7年であり、エアコンやエレベーターなどの設備が整い、明るく清潔である。居間の外や玄関に面した窓が大きく開放的で、キッチンから利用者の様子が見やすくなっている。共用空間は季節の装飾や絵画を飾り、家庭的な雰囲気である。法人が道内で多数のグループホームを運営し、各種のマニュアルや書式、研修などの面が整っている。職員は理念に沿って、利用者本位を心がけ、笑顔で明るく利用者や家族に接し、家族の安心につながっている。また、職員が6つの委員会を通して運営に参加し、職員間の連携・協力がスムーズである。ケアマネジメントの面では、カンファレンスで職員の意見を集約して評価表を作成し、介護計画を更新している。利用者の生活歴や趣味・嗜好のさらなる把握も進めている。医療支援の面では協力医による往診体制と、訪問看護による健康管理があり、受診記録や健康管理の記録も整備されている。看取り支援の面では、家族や担当医と十分な話し合いを行って希望に沿った支援を行えるようにしており、職員は看取りの経験を積んでいる。今年交代した新たな管理者のもと、職員全体でサービスのさらなる向上に取り組んでいるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設で生活を送っていても、各入居者様が在宅で生活を送っていたと思えるように、毎日のレクや生活活動等に参加して頂いています。	開設時に作った独自の理念の中に「地域社会との関係を大切に」「地域資源と連携」という文言があり、地域密着型サービスの理念として確立している。理念を玄関や事務所に掲示し、会議の際に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア様、町内会住民などに避難訓練や敬老会等に参加して頂き、地域とのつながりを大事にしております。	感染症流行前は町内会のお祭りに利用者や職員が参加し、事業所でハーモニカ演奏やカラオケのボランティアを受け入れていた。感染収束後は以前のような交流をしたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターや民生委員等と連携して、ご家族様や地域住民への、認知症への啓発を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推進会議を開催し、ご家族様や関外部係機関に、施設での取り組みを報告しています。	去年は2か月ごとに開催され、市や地域包括支援センター職員、利用者家族の参加を得ていた。今年には感染症流行のため1回の文書開催にとどまっている。会議は報告事項が中心である。議事録を家族に送付している。	当面は文書開催となると考えられるが、2か月ごとの会議の開催を期待したい。また、計画的にテーマを設定し、意見交換が行われることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	骨折や服薬事故等、重大な事故が起きたら、事故報告書を作成し、室蘭市役所に提出、報告しています。	運営推進会議に市や地域包括支援センターの参加があり、情報提供を得ている。市役所には書類やケアプランの作成について気軽に質問している。利用者の介護認定について判定書類の提供を受けたこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が中心となり、スタッフの態度や言動等、入居者様の拘束をしていないか、日々、確認しています。	身体拘束を行っておらず、具体的な禁止行為を記したマニュアルを用意し、年4回の身体拘束廃止委員会と年2回以上の勉強会を行っている。事業所前の交通量が多いことと感染症対策のため、現在は玄関を施錠しているが、利用者の外出希望があれば同行するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員が、外部の研修などの参加して、日々の業務で虐待が発生しない様に、取り組んでおります。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修会の参加、スタッフ個々で、日頃から学習に取り組んで、知識の向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、計画作成が、ご家族様と面談して、契約事項、料金体制等の説明を、丁寧に行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置し、ご家族様の意見等、取り入れ、健全な施設運営の向上に、努めています。	感染症の流行があるが、玄関先での面会やタブレット端末を利用した面会を行っている。家族からの意見を個人記録に記載しているが、今後は利用者ごとノートに記載することも検討している。家族に毎月お便りを作成し送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議等を利用して、スタッフの意見等取り上げ、施設の健全な運営に努めています。	全体会議とユニット会議を定期的に行い活発に意見交換を行っている。管理者と職員は随時、面談を行っている。職員は行事や献立づくり、食材発注、環境整備などの委員会に所属し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日頃からスタッフとの連携を図り、辞めない環境作り、やりがいがある職場作りに、努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開催している研修等に、スタッフ全員が均等に、各種研修会に参加できるように、計画を立てています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や、ケアマネ会等の事業者会議に参加して、相互情報の共有を行い、施設運営の向上に努めています。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成が、ご家族様や当人と面談し、解決すべき問題等、よく把握して、信頼関係が築けるよう、努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が、不安や疑問に思っている事等、よく傾聴して、より良い関係が築ける様、努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の心身の状況に応じて、医療機関、訪問看護等と連携して、適切なサービスが提供できるよう、努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ目線ではなく、入居者様目線の介護が出来る様、努力して、日頃から、業務に従事しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様に、変化が見られた場合は、速やかにご家族様に連絡して、情報の共有に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や親類、知人等がいつでも、気軽に面会に来られる、施設環境です。また、ご家族様の協力で、外出等も出来ます。	最近は馴染みの人の来訪が減っているが、感染症の収束後は以前と同じように関係継続ができるよう取り組む方針である。ラーメン店、水族館など利用者の馴染みの場所への外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様18名の性格や生活歴等、よく把握して、集団生活が、楽しく過ごせるように、支援しています。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退去しても、ご家族様が、いつでも気軽に来訪して、不安に思っている事など、相談できる環境を目指しています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、個々の趣味や嗜好、性格等をよく把握して、利用者本位の生活が送れる様、毎日の業務に従事しています。	半分ほどの利用者は思いや意向を言葉で表現でき、難しい方の場合も表情や問いかけの反応から把握している。アセスメントシートはADLの情報が中心で、生活歴や趣味等の情報は少ない。		生活歴や趣味・嗜好などを記載する「ライフストーリー表」を作り始めたところであり、全利用者分の計画的な作成を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の昔の生活歴など、よく情報収集して、利用者様が安心して、生活が送れる様、サービスに努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや生活日誌などで、情報を収集して、日々の生活情報を把握、共有しています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、臨時のカンファレンス等を開催して、各入居者様のADLに沿った、プラン作成を行っています。	介護計画を6か月ごとに見直し作成している。カンファレンスの内容をもとに評価表を作成し、次の計画を作成している。介護記録を計画目標の番号を記しながら記録し、特記事項欄を使ってさらに具体的な内容を記載することも検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録等を参考にして、入居様様に変化等があれば、ケアプランの変更をして、スタッフ間の情報の共有を図っています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関や、訪問診療、訪問看護等とよく連携して、利用者の心身の健康の維持に、努めています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関や民生委員、地域住民、ボランティア等と連携を図り、入居者様が健全な生活が送れる様、支援しています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関や訪問診療、訪問看護と連携して、入居者個々の状態に合った、医療サービスを提供しています。	ほとんどの利用者は協力医による月2回の往診を受け、3~4名の方は他のかかりつけ医へ通院している。通院は家族または事業所で支援している。受診内容を「医療機関関係報告書」に記載して共有している。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と密接に連携して、入居者様に変化等あった場合は、直ぐに連絡して、適切な医療が提供出来る様、努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、主治医、ご家族様と、連携強化を図り、入居者様の情報の共有に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療と契約されている入居者様は、看取りケアを実施しています。今年度も、実施予定となっています。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意の署名捺印を得ている。看取りに入る際は家族や担当医と十分に話し合いを行い、最近も2名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様に事故や急変等あった場合は、直ちに、対応できるように、日頃から、学習に取り組んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防関係、町内会と連携して、1年に2回、防災訓練に取り組んでいます。また、町内会の防災講習にも、参加しています。	年2回、昼夜および地震を想定した避難訓練を行い、消防や地域住民の協力を得ている。職員の救急救命訓練は計画的に行っていない。災害時に必要な備蓄品の準備を行っている。	各職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるように計画的な取り組みを期待したい。また、災害対応マニュアルやガイドブックを参考に、年に1回程度、地震や水害などへの対応について話し合いを行うことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の業務の中で、スタッフの声掛けや言動等に問題がないか、スタッフ同士が常に気を配り、注意し合える環境作りをしている。	呼びかけは名字に「さん」づけとし、気になる言葉がけや対応がある際は個別に指導している。入職時や勉強会で接遇を学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、入居者様個々の思考等を考慮して、可能な限り、自己決定できるサービスを提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ目線ではなく、入居者様優先のサービスに努める様、毎日の業務に取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出、外泊、季節に応じた衣類の調整をして、身だしなみを整えています。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の毎日の状態を見て、スタッフと一緒に、生活参加等(米研ぎやテーブル拭き)に参加して頂いています。	献立は栄養面に配慮し職員が作成している。利用者が米とぎや野菜の下拵えなどを手伝っている。誕生会は本人の食べたいものを提供し、行事ではお寿司などの出前も交えて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の栄養状態、水分量を把握して、個々に合った、食事の提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後、入居者個々の口腔状態に合わせて、口腔ケア支援等を実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の排泄状況を把握して、清潔保持に努めています。また、可能な限り、オムツを使用しないで、トイレで排泄出来る様、努めています。	全員の排泄チェック表を作成し状態を把握している。誘導が必要な方は本人のパターンに沿い、声かけの言葉や声の音量に配慮しながらトイレ誘導している。夜間帯はベッド上で排泄支援を行う方やポータブルトイレを用いる方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが出来ない入居者様には、医療と連携して、薬剤で調整を図っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度の入居様には、安全を考慮してスタッフ2名で介助を行っています。異性拒否の入居者様は、同性介助にて対応しています。	入浴チェック表を活用し、各利用者が週に2~3回入れるよう曜日を問わず支援している。入浴を拒む方へは無理強いせず、声かけを工夫するなどして対応している。入浴剤の使用や会話を大切に楽しめる入浴を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様9名の睡眠状況をよく把握して、日中の活動量を向上して、安眠出来る、支援を実施しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者9名の病状や身体状況をよく観察して、スタッフも服薬について、よく学び、的確な服薬支援を実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の体操やレク、生活参加等に参加して頂き、日々、楽しく生活が送って頂くよう、支援を実施しています。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季に沿って、紅葉ツアーや水族館レク、外食ツアー等を実施して、外気浴を楽しんで頂いています。	感染症の流行で通常の外出行事は難しいが、ドライブ外出を行うなど、車窓から景色を眺めたりしている。玄関前やテラスに出て外気浴も行っている。例年、お花見や紅葉見学、水族館、買い物などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の金銭管理は、行っていません。必要物品や病院受診等の費用は、施設で立替払いとしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人等から、電話や手紙が届いた場合は、御本人と取次ぎ、交流を深めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季のイベントや行事等、スタッフと入居者様で、装飾品等を作成して、季節感を感じて頂く、空間作りを大切にしています。	リビングとダイニングが一体になった広く明るい共用空間である。テラスは緑に囲まれ居ながらにして四季の移ろいを感じることができ、飾り付けも季節感がある。玄関は花や設えを工夫し温かみがあり、トイレは夜間でも分かるような表示がある。暖房は蓄熱式を設置している。全体的に清潔感があり、居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様9名が、転倒なく、快適で安全に生活を送って頂くように、日々、環境作りに励んでいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた、思い出がある写真や家具等を持参して、在宅で生活を送っているような、環境を整えています。	居室は綺麗に整頓され、自宅から持ち込んだ家具や調度品がある。壁に家族等の写真や好みのものが飾られている。利用者の状態に応じたベッドも持ち込まれ、寝具も整っている。本人が快適に過ごせる空間づくりを丁寧に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様9名が、不自由なく、安全に過ごせるように、入居者様の行動を制限する障害物がないか、日頃から気を付けています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500139		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家室蘭 2F		
所在地	室蘭市緑町3-6		
自己評価作成日	令和2年2月14日	評価結果市町村受理日	令和2年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は介護に従事する者として、人権尊重、人格尊重、人権擁護の基本理念を理解して、職員自身も自分の個性や性格、らしさを支援できるように、努めています。また、日頃から、外出レクやテラスでのお茶会を提供して、毎日の生活の中で、喜びや気分転換を図って頂くよう、支援を実施しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193500139-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193500139-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年10月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様が日常生活での生き甲斐や役割を持てる様に支援しています。また入居者様が家庭的な生活を送れるようにスタッフが支援しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会には法人として参加しています。夏祭りや避難訓練等には地域の方にも協力して頂きました。町会の年次総会に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長を通じて、地域住民への認知症の啓発を行っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催しており、入所者様御家族、町内会長、民生委員、消防署、地域包括等の関係機関の方に参加して頂き、色々と意見を聞きサービスの向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には行政担当者が参加して頂いてます。確認事項、分からない事は出向き伺っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を実施して話し合いを行い、拘束をしないケアに努めています。全体会議の中で、身体拘束、虐待について確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で虐待、拘束の確認をしている 職員同士注意し合っている。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が研修に参加して、毎月の全体会議の時に何を学んできたのか伝え、みんなで理解に努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等で医療体制、個人情報取り扱い等説明し、同意を得ています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や要望書、意見箱等を活用して、御家族様からの意見を聞いて運営に反映させています。また会議の時等に御家族様の意見を全スタッフに伝える様にしています。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議等で職員から意見を聞いて、反映出来る様に努めています。管理者、計画作成者は定期的に話し合っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日頃から現場に出てきて、介護方法等を積極的に指導して、職員のスキル向上に努めています。改善してほしい事は代表者に伝えている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフは年に1回は研修に参加しています。また研修内容を全体会議の場で報告している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加して他施設のスタッフとの交流を深めて、共有の場を作っています。困難事例の検討等行い情報共有をしている。			

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前から御本人様や御家族様と面談し、心身の状態や思い、嗜好等を事前に傾聴しています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の願いや、御本人様の今までの生活歴等を傾聴して、どのようなサービスを提供するのかを説明して、より良い関係を気付ける様に努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な時は、関係医療機関等と連携し、柔軟な対応が出来る様に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの生活の中で、心身の変化を観察し見極めています。生活歴を傾聴し信頼関係を築く様に努めています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様との連携を密にして、面会に来られた時等に日々の生活状態を報告して情報共有に努めています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様等面会に来られた時は落ち着いて話せるような環境を提供しています。また御家族様の協力でも外出や外泊等も行っています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様同士が穏やかに生活しコミュニケーションがうまく取れる様に調整しています。又思い違いによるトラブル発生に発展しない様関わっています。			

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族より問い合わせがあれば相談やアドバイスをしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人の意向や状態、嗜好に合わせて支援する様に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で御本人様や御家族様から嗜好等の情報を聞いてサービスを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録は誰が見てもイメージで出来る様な記入をしている。朝夕申し送りを行い、スタッフ同士の情報共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活で変化があればその都度会議して、スタッフ間で話し合いを行いケアプランに反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様に变化あった時は生活記録に残し申し送りを行っています。特変時、アセスメントを行いケアプランを変更しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様が面会に来られた時等に意見を聞いてケアプランに反映出来る様にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して生活出来る様に、医療機関や地域包括センター等の地域資源を生かし協力しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や訪問看護、医療機関と連携して、入居者様個人に合わせた医療を提供しています。何かあればすぐに連携医療機関に連絡して指示を貰っています。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護を受けています。また入居者様に異常が見られた時には直ぐに報告して指示を貰い、適切に対処出来る様にしています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は入居者様のADL等情報を医師に提供しています。医療連携室と情報交換に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に御家族様に看取りにするか聞いています。また、訪問診療と連携し、ホーム内で終末期のケアを出来る様に努めています。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会を行い、状況に合わせたケアを出来る様に努めています。訪問診療、看護の連携を密にし急変時の対応を伺っています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携して年2回の避難訓練を行っています。また新人職員は水消火器を使った訓練もしています。町内会長に災害訓練の協力をお願いしている。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止委員会を中心として不適切な発言や行為が無い様に気を付けています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望や想いを聞いて、それに沿えるように支援をする様に努めています。自己決定を促し思いを受け止める支援をしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ入居者様個人のペースに合わせた生活が出来る様に支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出時、入浴後等の整髪等入居者様にしています。買いますが、やり難い所は支援する様に努めています。			

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食器洗い拭き等をスタッフと入居者様と一緒にしている。簡単な調理や味見等して頂いている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下機能低下が見られる入居者様には食事形態を刻み等にして提供しています。加齢により食べづらい場合は介助をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けや介助を行い清潔を保てるように努めています。義歯洗浄の仕上げ支援を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握して時間を見たりして声掛け等行い、尿汚れを減らして自尊心を傷つけない様に支援しています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が困難な入居者様は、訪問診療、訪問看護、個々の主治医に相談し服薬による排便コントロールを行っています。又乳製品や野菜を提供し自然排便を促すようにしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回は入浴出来る様に努めています。入浴を嫌がれる入居者様には時間を置いて声掛けしたり、スタッフをかえて声掛けする等の臨機応変に対応しています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様個人の睡眠サイクルを把握し、居室内の温度や湿度調整等を行い安眠出来るように支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一人一人が薬剤の効果等を理解し、服薬時異変が無いかを観察しています。服薬前にはしっかりと名前や日付の確認を行っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様に合わせた生活参加を行ったり、カラオケ、囲碁のボランティア活動を利用しています。			

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日やスタッフの多い日はドライブに出掛けたりして気分転換を図っています。趣味のダンスに出かけたり、喫茶店に出かけ日常を感じて頂いている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭の預かりはしていないが、必要な物があれば家族様に相談して立替購入しています。日用品の購入の際支払いをして頂いている(立替払い)。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様や知人からの電話は取次を行い支援しています。お手紙はご犯人の了解のもと読み伝えています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせてホーム内の装飾を変更しています。またホールやトイレ、浴室等の清掃を行い異臭防止を行っています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が仲良く過ごせる様にホール内のテーブル配置を考えて支援しています。トラブルがあればスタッフが間に入る様にしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が昔から使用していた馴染ある家具や家族様の写真を持ち込んで、馴染のある生活を送れる様に支援しています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が転倒しない様に動線を確保出来る様に配置を考えています。また入居者様の状態に合わせてその都度配置換えを行っています。			

## 目標達成計画

事業所名 グループホームあさひの家室蘭

作成日：令和 2年 10月 29日

市町村受理日：令和 2年 12月 15日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	年に6回、運営推進会議を開催していますが、ご家族様、地域住民、関係機関の参加率の向上が解決されず、施設運営の改善等に反映されていない。	ご家族様や地域住民様に運営推進会議に参加して頂き、ご家族様に、毎日状態や施設での行事や勉強会などの取り組みなど、情報共有して頂く。	お手紙や電話、面会などで運営推進会議の参加を求めています。その他に、毎回、テーマを設定して、ご家族様が興味を抱いて、積極的に意見交換出来る様に努める。	1年
2	23	入居者様の生活歴、趣味、嗜好品等はアセスメントシートを基にして、ケアプラン作成を行っているが、アセスメントシート以外の資料が少ない。	アセスメントシート以外にも、ライフヒストリー表を活用して、入居者様やご家族様にも趣味や嗜好などの聞き取りを行い、入居者様が施設でも楽しみを持って生活が送れる様、支援する。	ライフヒストリー表を活用して、ご家族様と面談等を利用して聞き取りを行う。意思疎通できる入居者様にも趣味などを聞いて、レクリエーション等の支援に取り入れる。	1年
3	34	入居者様の転倒などの事故や急変等の対応方法等、全スタッフが周知徹底されておらず、対応できるスキルを身に付けていない。	全スタッフが、施設内の研修、外部で実施している救急救命法などの研修会に参加して、事故や急変時等に柔軟に対応できるスキルの習得に努める。	定期的に外部の研修会に参加、施設での勉強会に取り組み、スタッフ全員がスキルを身に付け、入居者様の転倒事故等に対応出来るように努める。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。